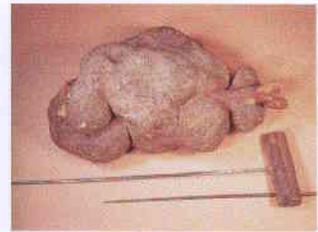


【生薬名】茯苓 *HOELEN*、茯神

【起源植物】マツホド *Poria cocos*



茯苓と茯苓突き

【科名】サルノコシカケ科Polyporaceae

【別名】ホヤ、伏苓一名伏菟（神農本草経）

【薬用部分】マツ属植物の根に寄生し、伐採後5～6年を経た根の周りに生じた不定形塊状の菌体

【主成分】多糖体のベータパヒマン94%、エブリコ酸

【薬性】気味は甘淡平、帰経は心肺脾胃腎に属す

【効能】●利尿滲湿・健脾和中・寧心安神

●漢方では水分の代謝を調節する、1日3～10g

●鎮静、利尿、強心、強壯作用がある

●利尿、鎮静薬で浮腫、めまい、心悸亢進、口渴、胃内停水、筋肉痙攣などに粉末1回2gまでを1日2～3回服用、また1日5gを煎服する。

●茯苓の水製エキスは抗潰瘍作用や血糖降下作用を示す。

●根の通った部分を茯神といい鎮静作用が強いとされる

●広島では弱った家畜(牛)に強心剤として食べさせる習慣がある

【備考】●日本にも茯苓突きという道具を用いて採取する名人が多くいたが、その数も激減したという。また、栽培する際に松材を使うが樹皮の部分なしでは茯苓は全く育たない

●中国では大量に栽培されて食用としての相当量が利用されている

【出典】●治胸脇逆氣、憂恚驚邪恐悸、心下結痛、寒熱煩滿欬逆、止口焦舌乾、利小便、久服安魂魄、養神、不飢延年。（神農本草経上品）

●味痰、湿を滲し、竅を利し、白は痰涎を化し、赤は水道を通す。（薬性歌）

【備考】●茯苓は能く補し、また滲ずる作用があり、脾を益し、心を養い、水を利し湿を滲ずる。それ故、補益、滲利の薬物といえる

●茯苓は補佐薬であり、補気薬と配合して脾を健やかにし、利尿薬とともに滲湿作用を強める。また安神作用もあるので心悸亢進、精神不安、失眠症などに用いる

【処方例】●苓桂朮甘湯、茯苓飲、五苓散、茯苓四逆湯